

# 濱文様

## 「横浜伝統の型染め捺染」

横浜捺染には140年の歴史があり、イタリアのコモ地方と並びその技術は高い評価を得てきました。1859年に横浜港が開港すると、多くの外国商館がこの地に集まりました。浮世絵や輸出用の茶箱ラベル製作をしていた木版職人達がこの地に移り住み、横浜の捺染技術は東西の優れた木版技術を取り入れて発展してきました。1891年には型紙を使い、刷毛で刷りこむ捺染法に秋山鹿吉が初めて成功し、「更紗捺染」と呼ばれる現代の捺染の基礎が築かれました。

横浜で「更紗屋」が捺染工場の代名詞のように使われたのもこのころからでした。日本各地から集まった職人達が技術を競い合い、海外の知識を吸収しつつ、現代の横浜捺染の技術を確立していきました。シルクの集散地であった横浜は気象条件、水質資源にも恵まれプリント加工の一大産地になったのです。そんな時代の中、1948年に有限会社清捺染工場を加藤清が創業しました。横浜の地場産業であるスカーフ、ハンカチなどを染める独自技術を蓄積する中、海外への輸出も手がけてきた経験を経て「濱文様」は生まれたのです。

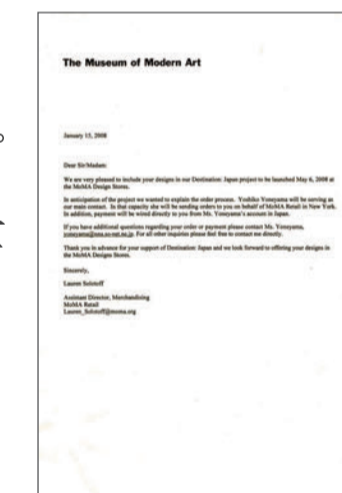


## 「遊び心」

濱文様が提供する商品は、横浜発信の遊び心のある個性的なデザインが特徴です。てぬぐいにはどこか懐かしい温もりと日本の粋のようなものが感じられます。この日本の粋のような感覚を失わず、それを現代風にアレンジしていく独自の遊び心を濱文様は大切にしています。絶妙な配色と、可愛らしさや遊び心のあるデザインを、横浜捺染の高度な技術で布の上に表現していく。それは横浜発信の和、新しい和という新たなカテゴリーを、こつこつと創りあげていく、時間はかかるけれども楽しい作業でもあります。人々を和ませる遊び心あるお洒落なデザイン。四季折々の日常をユニークなデザインで楽しんでいただくのが濱文様の願いです。

## 「現代の和」

濱文様は、現代の和とこれからの和を表現することで、濱文様にしかできない独自の世界を求めています。その試みのひとつである「てぬぐい本」は、グッドデザイン賞、中小企業長官特別賞を受賞し、ニューヨーク近代美術館「MOMA Design Store DestinationJapan」にも選定展示されました。世界共通の心地良さの表現として広がっていくHAMAMONYOは、現代人のライフスタイルにあった和の魅力を大切にしています。横浜だからできること、それが濱文様のシンプルで洗練された和の世界です。



MOMAからの招待状

